

ヨーロッパサッカーにおける得点パターンとパス本数の傾向

高津龍太郎（競技スポーツ学科 コーチングコース）
指導教員 山田 庸

キーワード：戦術，ポゼッション，カウンター，パス本数

1. 緒言

近年のサッカーではFCバルセロナを代表とするパスやポゼッション中心のサッカーとレスターシティなどのカウンターを中心とするサッカーの2つの流れが存在する。支配的にゲームを進めようとするポゼッションサッカーと防御的に進めながら一発攻勢を目指すカウンターサッカーと位置付けられている(スポスタ, 2015)。カウンターサッカーとポゼッションサッカーとではゴールに繋がるプレー時のパス本数にどの程度違いがあるのだろうか。

本研究では、欧州主要サッカーリーグの2つの優勝チームを対象に得点までのパスの本数と得点パターンの関連性について検証することを目的とした。

2. 調査方法

2015-2016 シーズンのプレミアリーグ優勝のレスターシティ、リーガエスパニョーラ優勝のバルセロナの全試合の公式映像を視聴し、①ゴールに至るまでのパス本数、②得点エリア、③プレー種別とした。パス本数のデータが取れないペナルティーキック、フリーキックは除いた対象プレーは計122プレーであった。また、プレー種別を分類するとき、パス7本以上を遅攻、7本以下を速攻とし、速攻の中には1本目のパスエリアがセンターラインの後方か前方かによって、ロングカウンター、ショートカウンターに分類した。

3. 結果および考察

表1は平均パス本数、総得点および速攻、遅攻回数を示している。平均パス本数は約7本、攻撃パターンが遅攻約42%、速攻が48%とほぼ半分の割合となった。レスターシティは2本、3本と少ないパス本数でゴール前にボールを運ぶ速攻

が75%と著しく多い結果となった。全40ゴールのうち遅攻でのゴールは2つしかなく、カウンターに偏った攻撃であった。

また、両チームにいえる特徴として、全ゴールのうち90%以上がペナルティーエリア内であることから、より確実にゴールを奪うために、ゴールに近い場所で攻撃を行っていた。

以上のことから、バルセロナはスペースを与えない守備に対応した遅攻と速攻を使い分けるスタイルを確立したといえる。一方レスターシティはカウンターに偏った攻撃であり、2016-2017シーズンにおいてプレミアリーグで下位争いとなっている一因がみてとれた。

表1 平均パス本数、総得点、速攻、遅攻回数

	平均パス本数	総得点	遅攻回数	速攻	
				ロングカウンター	ショートカウンター
FCバルセロナ	6.97	82点	38回	9回	35回
レスターシティ	3.27	40点	2回	12回	26回

4. 今後の課題

2チームでの研究で極端にスタイルの異なる2チームを研究対象に選んだが、中堅、下位のチームを研究対象に含むことにより、今後のサッカー戦術での新たな改善点や注目すべきプレーの特徴をより明確にすることができたのではないかと考えられる。

引用・参考文献

スポスタ (2015) 現代サッカーはこう見る、ポゼッション戦術とカウンター戦術のポイントと違いを解説。 ticket.st/spo-sta/89203co2o(アクセス日:2016/7/15)